

2011年11月

遠山藤原学校研修

—長野県最南部の遠山郷で、藤原直哉と21世紀的ライフスタイルを学ぶ—

特集：遠山郷で21世紀を学ぶ2日間
—11月：遠山郷の歴史をたどる—



研修日程：2011年11月26日（土）・27日（日）の2日間

研修場所：長野県飯田市南信濃地区（遠山郷）

研修主催：シンクタンク藤原事務所

旅行手配・バス運行：マツカワ観光バス株式会社

< 1、研修の内容 >

このたびは、2011年11月遠山藤原学校研修の資料請求をしていただき、まことにありがとうございます。遠山郷は長野県の最南端、飯田市の南信濃・上村地方の山深い谷にあり、飛騨の白川郷、越後の秋山郷と並んで、日本三大秘境のひとつと言われています。

国の重要無形民俗文化財に指定されている遠山郷の霜月祭、神様の湯治場の伝説がある秘境の谷に湧いた天然温泉、遠山温泉郷「かぐらの湯」、日本のチロルと言われる下栗の里、南アルプスの雄大なパノラマを望むしらびそ高原、南アルプスの恵みをたっぷり含んだ名水・観音霊水など、数多くの伝統文化や雄大な自然が残っており、人と自然の本物の共生を体験したい人には、絶対お勧めの地域です。

さらに遠山郷は人情の里でもあります。遠山郷の人たちはとても人情味溢れた人たちで、特に都会の人たちとの交流が大好きです。そのため山村にありがちな閉鎖的で暗い雰囲気ではなくて、底抜けに明るくて建設的な雰囲気を、ここを訪れるみなさんに感じていただくことができます。特にこの研修では夜の懇親会に地元の有志をお招きして、共に食卓を囲み、お酒をいただき、楽しく交流していただきます。そうした心のふれあいがとても自然に、楽しく行われるのも、人情の里、遠山郷の非常に大きな魅力です。

4年前から始まった遠山藤原学校、遠山郷の休日は、毎年参加者が増えていまして、今年も3月から11月までの毎月開催です。そして今年の遠山藤原学校研修のテーマは「遠山郷で21世紀を学ぶ2日間」です。遠山郷は一言で言えば里山に囲まれた地域です。里山というのは、人が住む里と、人が行かない深山の間にある山のことで、里に暮らす人たちの生活のために手を入れられている山のことです。里山では人と動物、自然が共生していて、本当に日本の原風景とも言えるような姿がそこにはあります。特に戦後の近代化のなかで全国各地の里山が荒廃し、自然の生態系や人との共生生活が崩れてしまった場所が多く、遠山郷も例外ではありません。既に限界集落になっている場所も多い遠山郷では、我々のように外から来た人たちも手伝って、何とか里山を復活し、遠山郷にかつての賑わいを取り戻そうという動きが本格化しつつあります。そこで今回の研修では里山の魅力をみなさんに味わっていただき、里山を中心にした日本の原風景を堪能していただき、その「なつかしい未来」の風景のなかで、21世紀を明るく元気に生きるためのさまざまな勉強をしていただきます。

まず、1日目は12時30分に、遠山郷の中心、和田地区にあります国道152号線沿いの道の駅「遠山郷」内の、アンバマイ館という遠山郷観光協会の施設に集合していただきます。電車でお越しの方は、まずJR飯田線の平岡駅までお越しくください。東京方面からお越しの方は、東京8時33分発のひかり505号にご乗車いただき、豊橋で飯田線の特急伊那路1号に乗り換えて、平岡には11時57分に到着します。

JR飯田線の平岡駅から道の駅「遠山郷」内にあるかぐらの湯バス停までは乗り合いタクシーをご利用ください。お1人650円、所要時間約20分、特急の到着に連絡していますので、下車後、駅前広場まで階段を下ってください。そこでワンボックスタイプの乗合タクシーにお乗りください。平岡駅の予定発車時刻は12時10分、かぐらの湯には12時30分に到着です。そしてアンバマイ館はかぐらの湯バス停の目の前です。また自家用車でお越しの方は、中央自動車道の飯田、松川、飯田山本インターチェンジから約1時間です。

さて、集合場所の「アンバマイ館」という名前の由来ですが、「あんばまいか」というこの地方の方言からとったもので、「遊びましょう」という意味です。方言には標準語にはない温かみがあります。また遠山郷では方言で、よく語尾に「だに」をつけます。地元の方と話をすると必ずといっていいほど聞くことができる方言です。

今回の研修ではアンバマイ館に集合してから、みなさんに自己紹介をしていただきます。

それから地元の温泉施設、かぐらの湯内にある食堂味ゆ〜楽で昼食にします。味ゆ〜楽の料理長はかつて京都で日本料理屋を経営しておられたバリバリの板前さんで、74歳にして遠山郷にIターンされた方です。熟練された京都出身の料理人が作る秘境・遠山郷の料理を

どうぞご堪能ください。またここにはかつて藤原事務所の社員だった荒井茂樹がいます。彼は遠山郷に住んで、調理人として働いています。

昼食後は2時間ほど、遠山郷の中心、和田地区を散策し、観光します。まず和田地区の中心街、江戸時代から伝わる国道152号線・**秋葉街道**の宿場町、**和田宿**を歩いて通ります。秋葉街道というのは遠州の秋葉神社と信州を結ぶ街道のことで、鉄道が開通する以前は信州と遠州をつなぐ重要な人と物資の道でした。今は半ば忘れられたようにひっそりとたたずんでいます。江戸時代に整備された宿場町の面影が残り、昭和30年代、遠山郷が林業ブームで沸き立ったころに建てられた昭和時代の家も残っています。昔の魚屋さん、昔の映画館のあと、その昔、この土地が大きく栄えていたころに建てられたであろう大きな土蔵……。そして徳川家康の時代から建っていると伝えられている家などをゆっくり見学します。

それからこの地域を治めていた**遠山氏**の菩提寺、**龍淵寺**に行きます。龍淵寺は江戸時代に徳川氏に滅ぼされたこの地域の豪族、遠山氏の居城跡に建てられたお寺で、その境内に沸く**観音霊水**をいただきます。観音霊水は400年以上前から湧いているお水で、真夏や旱魃でも枯れずにいつも冷たくておいしい水がコンコンと湧いています。そのお水を近年専門家に調べてもらったところ、カルシウムやマグネシウムの含有量が日本で最も多い、すばらしい名水であることがわかり、最近では地元や近郊の方はもちろんのこと、東京や大阪から百リットルも2百リットルもお水を汲みに来る方がおられます。こういう硬水は味にクセが強いことが多いのですが、観音霊水は硬水でありながら大変口当たりがよく、特にコーヒーや紅茶にして飲むとおいしく、また日持ちが大変良いので、非常用のお水としても汲みに来る方が絶えません。また境内には樹齢500年の**観音大杉**があります。これは根元が一体となった4本の杉で、家族和合のしるしとして、参詣する人が絶えません。さらに龍淵寺には2年前に再建された総けやき作りの立派な**観音堂**があります。このお寺では長くお写経を続けていて、奉納されたお写経がこの観音堂に納められています。光堂と名付けられた観音堂からは和田宿が一望できます。

それから観音霊水の隣にある「**殿町の茶屋**」に行きます（もし売り切れ仕舞いになっていた場合は2日目の朝に訪問）。ここは地元の女性が経営しているお饅頭屋さんで、名物の**ふじ姫饅頭**はその日の朝に作って売切れたら終わりという非常に人気の高いお饅頭です。遠隔地から来られる方はどうしても遠山郷に来るのが午後になってしまい、何度来ても売り切れで食べられないという幻の饅頭でもあります。よもぎとそばの2種類の饅頭が8個入って千円のふじ姫饅頭は、遠山郷の外はもちろんのこと、遠山郷のなかでもこの殿町の茶屋でしか販売されておらず、ファンが絶えません。さらにここではお店の方がお客さんにお茶やお漬物を接待してくださり、多くの方が地元のみなさんの暖かい人情に触れて感激していかれます。

さらに**遠山郷土館「和田城」**を訪問します。ここは遠山郷の郷土資料館で、この地区に数百年前から伝わる国の**重要無形民俗文化財**、**遠山の霜月祭り**のビデオや複製の面（おもて）、また林業に関する展示、さらには遠山氏の子孫の方が伝えている宝物などを見学します。またこの1階の一部は喫茶店、**カフェ「和田城」**になっていて、目の前の観音霊水で入れた大変おいしいコーヒーをいただき、一服していただきます。

その後、バスに乗って遠山藤原学校の拠点がある木沢地区に向かいます。途中、小道木（こどうき）地区で遠山川の河原に下りて散策をしたいと思います。ここには河原に埋まっている**埋没木**があります。埋没木というのは地震や山崩れで地中に埋まってしまった木が後に露出したもので、通常の土中ではすぐに腐ってしましますが、川底などに埋まった場合には埋まった当時の姿をとどめていることがあります。遠山郷の埋没木は、今から1千300年前にこの地域を襲った大地震で遠山川の河原に埋まってしまった当時樹齢500年から700年の杉やヒノキの天然木が、近年の河川改修による河床の低下で地表に露出したもので、1千300年前の天然木の姿そのものを伝えています。実はこのヒノキ、まだ細胞が生きているようで、天然木らしいとてもすがすがしいヒノキの香りがするのです。これが樹齢700年の木であったならば、何と2千年前の命の香りを楽しむことができるのです。それは本当に驚くべきこ

とだと思っております。

さらにこの地区には、遠山郷の霜月祭りが開催される**熊野神社**があります。実は熊野神社の拝殿の前の地面に手をかざすと、不思議と気を感じます。それが何に由来する気かはわからないのですが、とにかく**気の出る神社**です。

そして遠山郷の木沢地区にある、木造校舎の廃校を利用した地域活性化施設、**旧木沢小学校**に向かいます。旧木沢小学校は平成3年に休校、平成11年に廃校となった地元の小学校で、現在に残る懐かしい木造校舎は、昭和7年に地元の人々の情熱によって建てられたものです。そのため廃校後も何とかこの木造校舎を保存し、同時にここを地域活性化の拠点とすべく、地元の有志が**木沢地区活性化推進協議会**という団体をつくって、木造校舎の維持管理を行っています。校内の教室には遠山郷の霜月祭り、地元を走っていた森林鉄道である**遠山森林鉄道**、南アルプスの登山道整備などを行っている**遠山山の会**、昭和時代の遠山郷の写真などが展示されているほか、藤原直哉の蔵書3千冊を寄贈した**藤原文庫**もあります。さらにここには年間を通じて多くの方が見学に訪れ、また空き教室を利用した講演会や集会、演奏会、映画会の開催、引っ越しのサカイの**CM撮影**などが行われていて、まさに地元の方と来訪される方との貴重な交流の場にもなっています。そしてこの小学校のすぐ隣に**遠山藤原学校**の事務所があり、その隣には、**遠山藤原学校観光農園**があります。この農園は廃耕地となっていた畑をお借りして、当社で募った遠山郷ボランティアと地元のみなさんが力を合わせて3年前に開いたばかりの農園で、遠山藤原学校における木沢地区の里山整備の拠点にしようとしている農園です。

そして観光農園で1時間ほど農業体験を行います。遠山藤原学校スタッフの皆さんのリードで、ご参加の皆さんに季節に合わせた農作業を行っていただきます。農作業はみんなでやるととても楽しいものです。遠山郷ののどかな里山の中に広がる観光農園で、自然と触れ合う楽しいひと時をお過ごしください。またここでは21世紀の肥だめとして注目されている新しい**複合発酵技術**を使った液肥を作り、散布しています。その様子もご覧いただけます。

農作業のあとはまず、本日のお宿、**かぐら山荘**にチェックインしていただきます。このお宿はきれいなロッジ風の建物で、観光、商用など、多くの方が集まる人気のお宿です。それから遠山温泉郷**かぐらの湯**でゆっくりと疲れを癒していただきます。かぐらの湯の源泉は、全国でも珍しい43度の高濃度塩化物温泉で、体がよく温まり、浴室内で温泉を飲用することもできます。この地域は日本列島を東西に走る**中央構造線**という大断層のために地形が非常に複雑で、地質学的にも謎が多い場所です。この温泉もそういう複雑な地質が生んだ珍しい温泉で、豪快な雰囲気が多くの方を惹きつけています。

夕食は**山肉料理**の専門店、**星野屋**にて、遠山郷の郷土料理である鹿、イノシシなどの山肉料理を囲みながら地元の方々を交えての懇親会となります。遠山郷は山里ですので、昔から、鹿、イノシシ、クマなどの動物の肉を食用にしています。野生の動物の肉はフランスではジビエと言われて大変珍重されていますが、日本でも最近ではジビエに人気が集まっています。何しろ野生の動物ですから配合飼料などは一切食べずに、完全に自然の無添加のえさだけを食べて育っています。まさに完全無添加のお肉。どうぞみなさん楽しく召し上がってください。そしてご参加のみなさん同士の交流を深めると同時に、遠山郷の地元の皆さんも大変人情豊かですから、地元の皆さんとの交流も是非深めて、時間の許す限り遠山郷の料理と酒と人情を味わってください。なお、今回はお食事の前に星野屋のご主人から山の動物について簡単なお話をいただきます。

また二次会にご参加いただけるは、遠山郷で都会の雰囲気が味わえるカラオケ・スナック「**セラード舞夢**」にてお楽しみください。実は、遠山郷の研修にいらっしゃる方々にいつも大変人気の場所がこの舞夢なのです。

2日目はお宿で朝食をいただいた後、さっそくバスで**青崩峠**方面に出発します。青崩峠とは国道152号線、昔の街道名でいえば秋葉街道にある要衝で、標高は1082メートル。信濃と遠江（とうとうみ）、今の言葉でいえば信州と遠州、長野県と静岡県を隔てる峠で、中

中央構造線沿いにあります。今回はこの青崩峠をみなさんで歩いて越えてみます。まずバスは島畑を出て5分もかからないうちに国道152号線沿いの梁木島(はりのきじま)番所跡に着きます。ここはかつてこの地域を治めていた遠山土佐守が徳川家康の命により大坂夏の陣・冬の陣で敗走した豊臣方の落人を取り締まっていた関所跡で、その後は遠山郷から搬出する材木の取り締まりなどを行っていたところです。現地には当時の建物がそのまま残っていますので、これを外側から見学します。そしてバスはいよいよ険しい峠道に入ります。途中、バスは此田(このた)という大変眺望の良い集落を通ります。そしてこの集落の最も高いところにある、大野田神社に行きます。この神社は南朝方第3代長慶天皇を祀(まつ)った神社と言われていて、非常にすがすがしい神社の境内には天国のような不思議な雰囲気漂います。南北朝時代には中央構造線沿いに吉野の南朝の都から多くの皇子や武士たちがこの地域に逃れてきました。この神社もそういう歴史の大転換期に南朝方の天皇が来た場所としてお宮を建てたようです。

そしてバスはそこからさらに登って兵越(ひょうこし)峠につきます。この峠は標高が1165メートルあり、青崩峠があまりにももろくて車道を通せないためにう回路として整備された峠です。かつて武田信玄が徳川家康を攻める際、信州から遠州に兵を進めるときに通った峠と伝えられています。実はこの青崩峠、兵越峠は非常に険しい峠で、特に冬は雪が降ると不通になり、地元の人たちにとってはここに立派な車道がつくことは長年の悲願でした。そして現在、青崩峠の南北には青崩トンネルという長大トンネルを通す計画が進んでいて、地元としては一日も早くこのトンネルが開通して、信州と遠州の行き来が楽にできることを祈っているのです。そこで峠の北側の飯田市・南信濃の商工会と南側の浜松市・水窪(みさくぼ)の商工会がここで毎年一回、両者の交流を盛んにすることを目的に峠の国盗り綱引き合戦を行っています。これは3本勝負の綱引きで、勝った側に国境が1メートル動くというもので、双方とも毎年精鋭を揃えて勝負をしています。

バスは峠を水窪側に下り、改めて水窪側から青崩峠直下に向かう道を登っていきます。途中に足神社があります。この神社は鎌倉時代に北条時頼の足の痛みを治した辰次郎という地元の人を祀った神社で、全国でも珍しい足の神様を祀る神社です。とても神気あふれる神社です。それからバスはその奥の駐車場で止まります。そこから我々はまず20分の遊歩道を青崩峠に向けて登ります。道は昔の青崩峠そのままに立派な石畳になっていて、かつてここを人や馬が頻繁に行き来した時代の光景が彷彿とよみがえってくるようです。やがて石畳が終わってなだらかな坂を登ると、ひょっこり青崩峠につきます。ここからは信濃と遠江の両方の国の山並みが細長く見渡せて、改めてここが太古の昔から日本に伝わる長大街道だったのだと納得します。本当に中央構造線沿いの地形は雄大なのです。今回の研修では天気や道の様子を見て、峠や峠から遠山側に降りたあたりで散策します。さらに往時の狭い人道も残っていますし、非常に大胆な自然の光景をご覧ください。

なお、青崩峠は大雨が降ったり大雨の直後は危険ですので行くことができません。さらに遊歩道、林道、車道が通行止めの場合にも行くことができません。その場合には日曜日の朝から、人形劇で有名な飯田市内の川本喜八郎人形美術館など、飯田市内の歴史ポイント等を見学して遠山郷に昼ごろ戻ってきます。繰り返しますが天気や道の事情によっては青崩峠に行くことができませんので、あらかじめご承知おきください。

その後、再びバスまで歩いて戻り、兵越峠を越えて和田地区にある地元の若者が経営するレストラン食楽工房 元家(げんや)にて昼食となります。このレストランは地元の元気な若者が経営しているレストランで、地元の食材を生かした創作料理を多数つくっています。遠山郷で最近注目の場所でもあります。

その後、旧木沢小学校に戻って校内を見学していただいた後、1時45分から遠山藤原学校研修講演「太平記を傍らに藤原直哉の時局展望」となります。全国各地の藤原塾のように1時間30分ほど、たっぷり時局と今後の行方を考えます。そしてその時に、鎌倉幕府の衰退滅亡から南北朝時代の攻防を活写した日本中世の軍記物語、太平記を引用しながら、ここ

はこうあるべき、ここはこうすべきというトップリーダーのあるべき姿勢を考えます。ただし、遠山では録音はなしにして、ざっくばらんに世のなかの情勢とこれからどうするかをお話します。録音なしのざっくばらんな講演と、太平記の勉強の同時進行は全国の藤原学校・藤原塾で遠山藤原学校だけになります。またこの講演のなかで「インターネットラジオ公開録音」を行います。火曜日にアップする私のインターネットラジオの番組のうちの1本を皆さんの前で公開録音します。さらに講演後はみなさんが撮影した写真を水野秀彦氏に解説していただきます。

そして午後3時45分に旧木沢小学校で解散。道の駅「遠山郷」に駐車された方、電車でお帰りの方はかぐらの湯までお送りいたします。かぐらの湯からは平岡駅まで乗合タクシーが出ています。乗合タクシーはかぐらの湯を16時7分に出て、平岡駅には16時28分に着きます。そして電車で東京方面にお帰りの方は、平岡を16時42分に出る特急伊那路4号で豊橋に行き、豊橋からひかり526号に乗り換えて、東京には20時10分に到着します。

今回も盛りだくさんの内容ですが、縁ある数多くの方々に遠山郷の自然と人情、そしてそのなかで生きる喜びを味わっていただき、遠山郷の里山に遊び、またよく学んでいただいて、遠山郷のファンとなり、21世紀を明るく元気に生きるための、たくさんの知恵と実力を得ていただきたいと思っています。一人でも多くの方のご参加を心からお待ちしております。

2011年10月吉日
シンクタンク藤原事務所
会長・経済アナリスト 藤原直哉

< 2、研修日程表 >

11月26日（土）

時間	予定	写真
12:30	集合 道の駅「遠山郷」内、アンバマイ館に集合 研修の説明と参加者の自己紹介、スタッフ挨拶	
12:45	昼食 道の駅「遠山郷」内、「味ゆー楽」にて	
13:15	出発 和田地区内を散策 和田宿、龍淵寺、殿町の茶屋、遠山郷土館・ カフェ「和田城」など	
14:45	出発 木沢地区に向けてバスで出発 途中、埋没木、熊野神社を見学	
15:30	到着 旧木沢小学校到着	
15:45	実習 遠山藤原学校観光農園にて農業体験	
17:00	出発 和田地区に向けて出発	
17:15	到着 かぐら山荘にチェックイン	
17:30	徒歩 遠山温泉郷「かぐらの湯」で入浴	
18:15	徒歩 夕食・懇親会の星野屋へ	
18:30	解説 星野屋のご主人から山の動物について解説	
18:45	夕食 山肉料理の星野屋にて夕食、懇親会	
	<p><u>散策および農園作業を行います</u> <u>ので、運動靴、汚れてもよい作業着、</u> <u>軍手、帽子、傘やカッパ等の雨具、</u> <u>そして水筒あるいはペットボトル</u> <u>をお持ち下さい。</u></p> <p><u>観音霊水を汲んで帰られる方は、別に</u> <u>ペットボトルやポリタンクを</u> <u>ご用意下さい。</u></p> <p><u>朝夕は冷え込みますので、防寒具や</u> <u>上着をお持ちください。</u></p> <p><u>なお、道路に不通箇所があったり</u> <u>危険だったり悪天候の場合には、</u> <u>臨機応変に迂回します。また山道のため、</u> <u>自家用車の運転や乗り物酔いには</u> <u>くれぐれもご注意ください。</u></p>	
		

アンバマイ館

遠山藤原学校観光農園

龍淵寺

かぐらの湯

遠山郷の名物

11月27日(日)

時間	予定		写真
7:00	朝食	かぐら山荘にて	 <p data-bbox="1225 589 1348 622">足神神社</p>
7:45	出発	バスで青崩峠方面に出発	
8:05	到着	梁木島番所跡	
8:25	出発		
8:40	到着	大野田神社	
9:10	出発		
9:20	到着	兵越峠	
9:30	出発		
9:50	到着	足神神社	
10:00	出発		
10:05	到着	水窪側遊歩道入口到着	 <p data-bbox="1161 965 1406 999">水窪側遊歩道入口</p>
10:10	出発	徒歩にて出発	
10:30	到着	青崩峠、および遠山側遊歩道散策	 <p data-bbox="1177 1339 1390 1373">秋葉街道の石畳</p>
11:15	出発		
11:45	出発	水窪側遊歩道入口到着。バスにて和田へ出発	
12:30	昼食	食楽工房『元屋』にて昼食	 <p data-bbox="1241 1966 1326 2000">青崩峠</p>
13:00	出発	旧木沢小学校へ。到着後、校内見学	
13:45	講演	「太平記を傍らに藤原直哉の時局展望」 途中、インターネット放送公開録音、	
15:45	終了 解散	<u>旧木沢小学校にて解散</u>	
		<p data-bbox="387 1592 1038 1671">電車でお越しの方、お車でお越しの方は、道の駅「遠山郷」内、「かぐらの湯」までお送りします。</p> <p data-bbox="387 1715 1007 1794">乗合タクシーの「かぐらの湯」出発は16:07、豊橋方面行特急の平岡出発は16:42です。</p>	

< 3. 研修費用 >

大人 1名

道の駅「遠山郷」からご参加 30,000円

学生 (大学生・専門学校生以下、中学生以上) 1名

道の駅「遠山郷」からご参加 15,000円

子供 (小学生以下) 1名

道の駅「遠山郷」からご参加 5,000円

なお、お食事とお布団、バスの座席の事前のご用意が必要でない乳児は無料です

(1) 研修費用に含まれるもの

・ 宿泊料金	原則として相部屋です。ご家族での一部屋でのお泊りはできる限り配慮させていただきますが、保証はできませんのでご容赦ください。宿泊は、 かぐら山荘 〒399-1311 長野県飯田市南信濃和田 561 TEL 0260-34-5777
・ 食事料金	日程表に記載された昼食2回、夕食および懇親会1回、朝食1回 (なお子供料金にてご参加の方は、1日目の夕食がお子様定食になります)
・ 入浴料 ・ 講演料 ・ ガイド料 ・ 入場料 ・ 遠山郷内交通費 ・ 旅行保険料等	日程表に記載されたかぐらの湯の入浴料、郷土館の入場料、コーヒー代、藤原直哉講演会の講演料、旧木沢小学校管理費およびハイキング、農業研修ガイド料、研修中の遠山郷内の交通費、下記旅行保険料、
・ 研修講師	シンクタンク藤原事務所 藤原直哉
・ 旅行保険	(限度額お一人様死亡障害2千万円)

(2) 研修費用に含まれないもの

・ 個人的性質の費用	タバコ、洗濯、電報電話、お酒・ジュース等の飲み物、お土産、個人の飲食などは個人負担をお願いします
------------	--

< 4. 旅行手配およびバス運行 >

マツカワ観光バス 株式会社	〒399-3304 長野県下伊那郡松川町大島1909-2 <本社/営業所> TEL 0265-36-2345 (代) FAX 0265-36-6060	一般旅客運送業 : 新自旅第771号
	国内旅行業務取扱管理者：松村 康文	長野県知事登録旅行業 : 第3-442号 社団法人全国旅行業協会正会員

< 5. 研修要領 >

募集人員	<p>21名（最小催行人数：10名） なお、先着順にお申し込みをお受けし、定員になり次第締め切ります。 参加申込書をシンクタンク藤原事務所宛てにお送りください （FAX または郵送でお願いします）</p>	
研修代金	<p>2011年11月18日（金）までに、研修代金の全額を以下の口座へお振込みください。</p> <p>郵便局 記号：10250 番号：89520371 口座名義：有限会社藤原事務所</p> <p>または ゆうちょ銀行（郵便局） 店名：〇二八（ゼロ二ハチ） 店番：028 預金種目：普通預金 口座番号：8952037 口座名義：有限会社藤原事務所</p>	
取消料	<p>お申し込み後、お客様の都合でお取り消しになる場合、当方の手続きを開始または完了している場合は、次の取消料を申し受けます。</p>	
	<p>出発日の前日より起算して1ヶ月前まで</p>	<p>大人1万円 学生5千円 子供2千5百円</p>
	<p>出発日の前日より起算して2週間前まで</p>	<p>参加費用の40%</p>
	<p>出発日の前々日および前日</p>	<p>参加費用の50%</p>
	<p>出発日の当日又は無連絡不参加の場合</p>	<p>参加費用の80%</p>
	<p>研修開始後</p>	<p>参加費用の100%</p>
研修主催（お問い合わせ）	<p>シンクタンク藤原事務所 〒250-0011 神奈川県小田原市栄町2-13-12 ASUKAビル2F 電話 0465-44-4750 FAX 0465-44-4751</p> <p>電子メール higuchi@fujiwaraoffice.co.jp 担当 樋口敬子（ひぐち けいこ）</p> <p><u>なお、当日の緊急連絡は、藤原直哉の携帯電話へお願いします。</u> <u>090-3046-6354</u></p>	

< 6. 研修概要 >

・ 研修名称	2011年11月 遠山藤原学校研修
・ 日時	2011年11月26日(土)・27日(日)の2日間
・ 研修場所	長野県飯田市南信濃地区
・ 集合・解散場所	現地 集合：26日(土) 12:30 道の駅「遠山郷」内、アンバマイ館 解散：27日(日) 15:45 旧木沢小学校 <u>なお、当日の緊急連絡は、藤原直哉の携帯電話へお願いします。</u> 090-3046-6354
・ 研修内容	各種見学、体験、講演など
・ 研修講師	シンクタンク藤原事務所 藤原直哉

< 7. 現地集合・解散場所まで/からの自家用車、電車での交通手段 (ご参考) >

(1) 自家用車でお越しの場合	<p>集合場所： 長野県飯田市南信濃和田 548-1 道の駅「遠山郷」内、 観光案内所「アンバマイ館」(かぐらの湯バス停目の前) (電話 0260-34-1071) 中央高速道 飯田、松川インターチェンジから約1時間 中央高速道 飯田山本インターチェンジから約1時間 東名高速道 浜松インターから兵越峠経由で約2時間半</p>
(2) 電車でお越しの場合	<p>東京方面から (行き) 東京 8:33 ひかり 505号 豊橋 9:59 豊橋 10:08 特急伊那路1号 平岡 11:57 下車後、かぐらの湯まで乗合タクシーで20分 お一人650円 (帰り) 旧木沢小学校からかぐらの湯まで車で10分、 かぐらの湯から平岡駅まで乗合タクシーで20分 平岡 16:42 特急伊那路4号 豊橋 18:31 豊橋 18:43 ひかり 526号 東京 20:10</p>

< 8. 注意事項、および持ち物など >

- ・ 散策および農園作業を行いますので、運動靴、汚れてもよい作業着、軍手、帽子、傘やカッパ等の雨具、そして水筒あるいはペットボトルをお持ち下さい。
- ・ 観音霊水を汲んで帰られる方は、別にペットボトルやポリタンをご用意下さい。
- ・ 農作業用の長靴は当方で用意します。
- ・ 朝夕は冷え込みますので、防寒具や上着をお持ちください。
- ・ 山道のため、自家用車の運転や乗り物酔いにはくれぐれもご注意ください。
- ・ なお、携帯電話は、電波が届かない場所があります。
- ・ また、青崩峠は大雨が降ったり大雨の直後は危険ですので行くことができません。さらに遊歩道、林道、車道が通行止めの場合にも行くことができません。 その場合には日曜日の朝から、人形劇で有名な飯田市内の川本喜八郎人形美術館など、飯田市内の歴史ポイント等を見学して遠山郷に昼ごろ戻ってきます。繰り返しますが天気や道の事情によっては青崩峠に行くことができませんので、あらかじめご承知おきください。

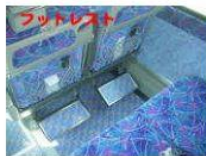
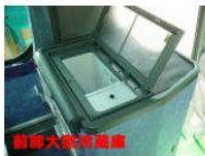
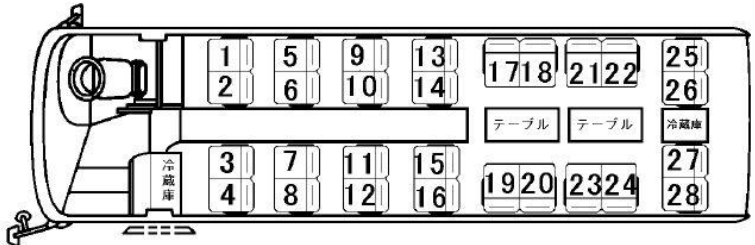
希望と心のふれあいの旅



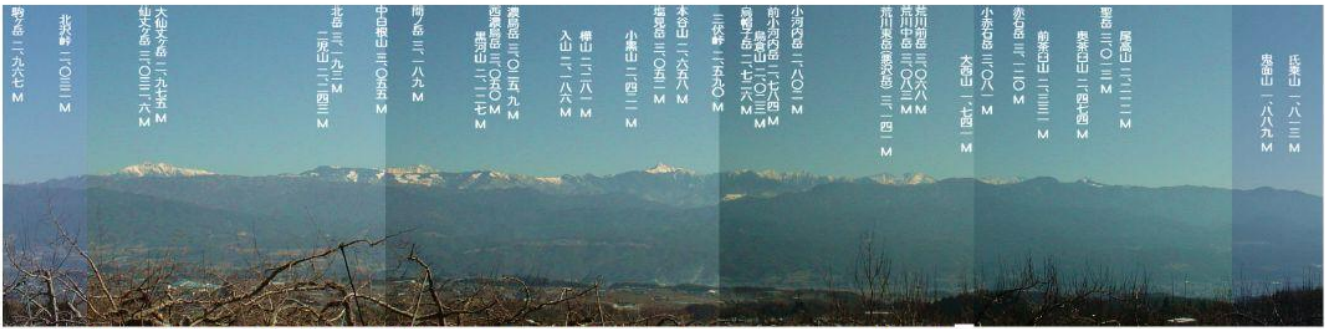
MATSUKAWA
マツカワ観光バス

便利・快適・安全を追求したスーパーサルーンバス Isuzu 465 28席

座席配置(サロン状態、座席を回転して前向きにも出来ます)



- 主な装備・仕様
- 足元ゆったりフットレスト付 28 席
 - 全シート可倒式アームレスト
 - シートバックテーブル・シートポケット
・コップ立て・灰皿
 - 8 席回転サロン (4 席のみでも使用可)
 - サロン席 2 分割テーブル
 - トレー式ルームラック
 - 大型ボトルクーラー (前後 2ヶ所)
 - 大型貫通トランク
 - 大型冷凍冷蔵庫 (60Lトランク内)
 - 給湯ポット
 - 電動格納式カラー液晶TV (前部 20 型, サロン席 15 型)
 - TVチューナー
ビデオ・CD・DVDデッキ
 - シンセサイザーカラオケ
 - 遠赤外線式ワイヤレスマイク
 - 障害物のないフロントワイドビュー
 - 乗り降りスムーズ フロントタイプ (120mm)



松川町から望む南アルプス(赤石山脈)(上段:南アルプスの山々、中段:前山の山々、下段:伊那山地の山々)



4列20人乗りサロン車

営業案内

貸切バス事業 一般貸切、各種送迎
 小さなグループから団体旅行まで
 旅のガイド付、地域観光案内

旅行事業 国内旅行
 一度行ってみたいかった話題の観光地
 ご希望に応じたコースの企画・見積と
 手配・ご案内をさせていただきます



4列21人乗りサロン車

マツカワ観光バス株式会社

本社／営業所 TEL 0265-36-2345(代)
 FAX 0265-36-6060

〒399-3304 長野県下伊那郡松川町大島1909-2
 一般旅客運送業 北信交旅第813号
 長野県知事登録旅行業 第3-442号
 社団法人 全国旅行業協会正会員

申 込 書

2011年11月 遠山藤原学校 11月26・27日

ご記入日： 年 月 日

選択してください ・ 自家用車で現地ご参加 ・ 電車で現地ご参加

フリガナ	性別	男 ・ 女
お名前	生年 月 日	明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)
弊社お客様番号 (おわかりになる場合)		
フリガナ	性別	男 ・ 女
お名前	続柄	生年 月 日
		明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)
フリガナ	性別	男 ・ 女
お名前	続柄	生年 月 日
		明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)
フリガナ	性別	男 ・ 女
お名前	続柄	生年 月 日
		明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)

■ ご連絡先について

<input type="checkbox"/> ご自宅 <input type="checkbox"/> 会社・学校 ※どちらかにチェックをおつけください。	
会社名 学校名等	※ご連絡先が「会社・学校」の場合にご記入ください。
部署：	役職：
ご連絡先 住所	〒 _____
TEL	() - FAX () -
携帯電話	緊急時 連絡可・不可
電子メール	@
喫煙の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <small>※部屋割りの参考にさせていただきます。</small>
●その他ご希望等ございましたらご記入ください。	

シンクタンク藤原事務所 担当：樋口敬子

TEL : 0465-44-4750

E-Mail higuchi@fujiwaraoffice.co.jp

↑ FAX送信先： 0 4 6 5 — 4 4 — 4 7 5 1 ↑